

# わが社の人材開発

## 企業文化を軸とした 採用と人材育成で 他社との差別化を図る

株式会社 VOYAGE GROUP

本社所在地：東京都渋谷区

事業内容：インターネットを活用したメディア事業、アドテクノロジー関連事業、リサーチ事業、スマートフォン関連事業

従業員数：約280名（グループ会社含む）



**SOUL**  
VOYAGE GROUPの魂

**360°スゴイ**  
creating a fantastic world

あらゆる事業も得意な、社内も社外も、日本を問わず、ユーザーもパートナーも、社員も顧客も、ワクワクもドキドキも、白ジツツもエキセントリックも、選手も観衆も、テクノロジーもクリエイティブも、便利も楽も、それは、いまでもこれからも。

**CREED**  
VOYAGE GROUPの信条

挑戦し続ける。  
自ら考え、自ら動く。  
本質を追い求める。  
圧倒的スピード。  
仲間と夢を成す。  
すべてに情熱を注ぎ、  
真っ直ぐに、誠実に、  
夢と志、そして情熱。

### 専門部署を設け、企業文化により 組織を活性化

VOYAGE GROUPはインターネットを活用してさまざまな事業を展開しているIT企業です。現在は、価格比較サイトやポイント交換サイトなどを運営するメディア事業、広告関連のアドテクノロジー関連事業、オンライン調査などを行うリサーチ事業の3分野を中心に、スマートフォン関連事業も手掛けています。

同社は「人を軸にした事業開発会社」を標榜し、「人」こそが事業展開の要であると考えています。社員たちは同じ船に乗り、同じ方向を目指す乗組員にたとえられ、「クルー」と呼ばれます。クルーたちの行動指針として「CREED」があり、「挑戦し続ける」「自ら考え、自ら動く」「本質を追い求める」「圧倒的スピード」「仲間と事を成す」「すべてに情熱を注ぐ」「真っ直ぐに、誠実に」「夢と志、そして情熱」の8つの項目で構成されています。

このような理念の下で、しっかりとした企業文化を形づくるのが大切だと、2010年7月にコーポレートカルチャー室が設立されました。同室のカルチャーエバンジェリストの宮野さんは、企業文化への考え方にについて次のように話します。

「次々と新しいサービスが現れるわれわれの業界の中で、他社とどのような差別化を図るのかを考えたとき、企業文化の大切さに思い至りました。それは組織の活性化につながり、他社に負けない競争力も生み出すと考えています。採用活動や人材育成もこうした考えの下に行っています」

### 充実したインターンシップと 自主的に開かれる勉強会

そうした採用活動の1つがインターンシップです。昨年は「Fellow」（新規事業開発プログラム）、「Rescue」（ものづくり実践プログラム）、「Stand」（体感型ビジネスプログラム）、「Sunrise」（大規模サービスプログラム）の4種類のインターンシップが実施されました。例えば「Fellow」は1週間で本場に新規事業を立ち上げることを前提としたプログラムで、優れたプランは実際に事業化される可能性があります。「Stand」は無人数を舞台に1泊2日の合宿形式で行われるもので、さまざまなミッションをどう乗り越えていくかが問われます。

「インターンシップは特に力を入れており、いずれのプログラムも学生たちに本気で取り組んでもらえるものと自負しています」（宮野さん）

新卒採用の募集は総合職とエンジニア職に分けて実施され、グループワークと面接によって選考が行われます。選考過程では、多くのクルーたちがかわり、学生たちと接するようになっています。

「優秀な学生の採用に向け、全社を挙げて取り組んでいます。また学生たちは多くのクルーたちと接することで、多面的に当社を観察できます」（宮野さん）

内定の最大のポイントとなるのは、同

社の企業文化に共感できるかどうか、同じ価値観を持てるかどうかという点とです。

内定者たちは入社前に内定者懇談会や内定者合宿に参加し、エンジニア職にはインターンシップ研修会が用意されています。その後、社員総会や内定式、内定者合宿を経て入社に至ります<sup>(\*)</sup>。

新入社員たちは入社後は約1カ月の新人社員研修のほか、エンジニアを対象とした基礎研修を受講します。また10月には1年目のフォローアップ研修が行われます。このほかエルダー制度があり、新人一人について一人の先輩社員がサポーターとして彼らのさまざまな相談に応じています。

新入社員たちは、OJTを中心に仕事に習熟していきます。キャリアアップ（CU）制度やキャリアアチェンジ（CC）制度があり、クルーたちが次のステップに進むことをバックアップしていきます。

またさまざまなテーマについて、自主的な勉強会が数多く開かれています。そのテーマに詳しいクルーが講師を務め、新しい勉強会も次々と現れています。このようにクルーたちは自らの研鑽に余念がありません。



(\*) 昨年の実施内容。常に改善しているため、必ずしも毎年同じ形ではありません。